

新しい年を迎えるにあたって

新潟の少女監禁事件の発覚と佐賀のバスジャック事件は日本社会に大きな衝撃を与えた。引きこもり問題を社会問題として認知するきっかけになった。それが丁度2000年の1月と5月であった。私が定年を前にした最後の年である。

それより6年前から私は得体の知れない苦しみを抱えるようになった。次男の心の病にどのように対処すべきかが全く見当がつかなかったからである。そのとき彼は23歳であった。彼は今年44歳になった。今は心の中で彼の気持ちがほぼ理解可能になった。彼はまだ得体のしれない苦しみの中でもがいているが、そこからの脱出は私を含めて社会がどれだけ彼を理解するかにかかっている。こちらの考えを押し付けたり、理解不能として閉じ込めたり、廃棄したりするわけにはいかない（今まではそうされてきた）。

私が精神保健福祉の問題にかかわるようになって14年が経過した。原理的にはそれなりに市民や行政に言うべきことは言ってきた。しかし市民も行政も理解できないらしいので、一面ではもう発言も行動もしたくないとも考えている。それでもこれまでの発言や行動に関して責任を取るべきだというのであれば、市民や行政の望むところに私の気持ちが合致すれば行動することや発言することにやぶさかではない。

社会は原理的には2000年時点とそれほど変わってはいない。障害者問題は目まぐるしく変化し、一見発展・進化しているように見えるが、一種のカモフラージュで、角度を変えればますます先鋭化しているとも言える。得体のしれない事件がますます頻発している。原発事故に対する無責任さ、理化学研究所のSTAP細胞（小保方晴子）問題、旭化成の偽装工作、化血研問題など、科学技術の原則が利益優先主義の迷いのためにしっかりと根付き切れていない顕著な例である。この先どんな誤魔化しや事件が起こるか分からない。

科学的客観性と普遍性は個人の主観性と個別性を土台にして生まれてきたものである。従ってある個人の主観性と個別性に耐えられないものは科学技術に値しない。つまり科学技術はすべての人々の幸福のためのものである。一部の人或は企業の幸福（利益）

のために、科学技術が今日あまりにも多く乱用されていないだろうか。それが今日の社会問題の根幹である。「科学技術及びあらゆる学問はすべての人々の幸福のためにある」というこの単純な原則がすべての人々の原則になることが肝要である。新しい年に向かってそんな願いを夢見ている。 津山・きびの会 理事長 川島 焔三



トトロで新年会

1月16日（土）10時よりトトロ班会合同で

今年の新年会は 小桁トトロで「一品持ち寄り新年会」を開きます。皆さんお誘いあわせて参加ください。10時から準備してお昼から始めます。

赤堀さんのおどり、カラオケ大会も予定しています。新しい年を語り合いましょう。

連絡網のことも検討しますのでよろしくお願ひします。

“元気ボカシ”好評販売中

ご協力ありがとうございます、ナンバ河辺店でも好評ですが、友人、知人へのPRよろしくお願ひします。昨年同様完売を目指しています。

